子ども食堂支援記録

子ども食堂への支援活動内容、協力企業、今後の活動計画、
支援品を受け取った方々からの御礼メールやお手紙などの
記録です。

カネハツ食品株式会社
商品開発部　企画
2026年5月

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

活動年表

年	月	項目	内容
2020年	12月	支援スタート	12月2日 第1回食品支援スタート。　名古屋市南区の弊社配送センターで子ども食堂支援関係者に支援品配布。支援関係者が各自積み込み、配送実施。
2021年	3月	支援品拠点配送（一部）スタート	3月4日 活動中継地5拠点に支援品配送スタート。大型冷蔵庫設置し冷蔵保管可能な環境下にある活動中継地（稲沢市、一宮市、名古屋市　計5か所）に、㈱タムラシステムサービス様のご協力のもと、直接支援品をお届けする配送システム構築。5か所に隔週木曜日配送をスタート。
	5月	支援品拠点配送拡大	5月6日 大型冷蔵庫拠点12ヵ所に拡大。Aコース、Bコースに分け、各コース隔週木曜日拠点配送に切り替え。気温の上昇でのマイカー引き取りにおける温度管理不足の商品事故防止の為、要冷蔵トラックで全て配送となる。
	5月	お米の支援開始	5月6日 中部食糧様、ミノヤランチサービス様、アサノ食品様の協賛により、 毎月５００ｋｇのお米支給を支援開始。
	5月	関東方面支援スタート	5月13日 神奈川県厚木市にある横浜低温流通株式会社に「ＮＰＯ法人ポセイドン＆チルドレン協会」関係者が支援品を引き取り、東京都大田区の子ども食堂「だんだん食堂※、ラーメン子ども食堂」へ配送スタート。※子ども食堂第1号
	7月	お福分けフードパントリー(東京都大田区)協賛	7月18日 お米やお惣菜など限定２５０セットを無料でお裾分けするイベントに参加。 青柳食品様「魚佃煮類」、佐々食品様「あんみつ、杏仁豆腐」、勝木食品様「佃煮類」2種類、菊池食品様　「煮豆類」と多くの食糧支援いただく。
	7月	フードパントリー(名古屋市南区)協賛	7月24日 限定５０世帯に無料でお裾分けするイベントに加藤社長も参加。中部食糧様、串ﾀﾂ様からの「お米」や名城食品様「麺類」、石井食品様「ミートボール」、お惣菜など食糧支援品をセット、射的やボールすくいなどのゲームなど会場設営など。
	8月	関西方面　支援スタート	8月3日 ㈱北部市場運送様のご協力により支援先への無料配送開始。配送先の一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか（大阪府大阪市西成区）から大阪市内の多くの子ども食堂へ支援が実現。
	8月	関東方面　支援品配送スタート	8月14日 横浜低温流通㈱様のご協力により支援先への無料配送開始。配送先：東京都大田区
	8月	関東方面　支援品配送エリア拡大	8月30日 新たに東京都日野市多摩エリア４件へ配送拡充。
	11月	マクドナルドお食事券　贈呈　愛知県限定	11月1日 日本マクドナルド株式会社様および愛知県下の11社2団体は、愛知県内の子ども食堂への支援として、「マクドナルド食事券600円相当」5,000人分を寄贈。11月1日(月)16時に愛知県名古屋市の一般社団法人つなぐ子ども未来(つなぐハウス)にて、贈呈式を開催。
	12月	お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるよう、お正月用の食料品支援。お正月用支援品を届けたいご家庭数を募ったところ、約1000世帯分応募あり。多くの企業様のご支援を賜り、上記商品を支援実施。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

活動年表

年	月	項目	内容
2022年	7月	マクドナルドお食事券　贈呈　東海3県	7月19日 日本マクドナルド株式会社および愛知、三重、岐阜県下の29社3団体は、東海３県内の子ども食堂への支援として、「マクドナルド食事券」13,000人分を「子ども応援ネットワーク団体」に寄贈。7月19日(火)15時より愛知県海部郡のマクドナルド大治店にて贈呈式を開催。
	12月	お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるよう、お正月用の食料品支援。
	12月	熊本県(菊池市)お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるよう、熊本工場よりお正月用の食料品支援。一般社団法人ひのくにスマイルプロジェクトの登録団体を通して、お正月用支援品をお届けする。
2023年	7月	マクドナルドお食事券　贈呈　東海3県＋静岡県	日本マクドナルド株式会社および愛知、三重、岐阜県下の28社2団体は、愛知、岐阜、三重、静岡４県の子ども食堂への支援として、「マクドナルド食事クーポン件」17,000人分を「子ども応援ネットワーク団体」に寄贈。
	10月	消費者庁長官賞　受賞	令和5年度食品ロス削減推進表彰にて「消費者庁長官賞」を受賞。中間支援団体と配送スキームを組んで、継続的な食糧支援を名古屋、東京、大阪で実施していることが評価される。
	12月	マクドナルドお食事券　贈呈　東海3県＋静岡県	みんなのれいぞうこ×おてらおやつくらぶ地域限定共同企画　「冬休みを楽しむおすそわけ」に参画　町中華・クリスマスケーキ・おせちのいづれかを選んで冬休みを楽しんでもらう企画におせち料理を提供
	12月	お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるよう、お正月用の食料品支援。愛知子ども応援プロジェクトの登録団体を通して、お正月用支援品をお届けする。
	12月	熊本県(菊池市)お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるよう、熊本工場よりお正月用の食料品支援。一般社団法人ひのくにスマイルプロジェクトの登録団体を通して、お正月用支援品をお届けする。
2024年	7月	マクドナルドお食事券　贈呈　東海3県＋静岡県	日本マクドナルド株式会社および愛知、三重、岐阜県、静岡県、石川県下の53社は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県４県内の子ども食堂への支援として、「マクドナルド食事券」15,000人分を夢つなぐプロジェクト（愛知）、一般社団法人こどもがセンター（岐阜）、三重こども食堂ネットワークを通じて地域の子ども食堂に寄贈
	7月	石川県義援金を５団体寄付	能登半島地震被災地のNPO法人など５団体へ10万円ずつ計５０万円寄贈（マクドナルドお食事券配布予定であったが被災地域の店舗負担を考慮）
	7月	募金箱設置支援	募金箱設置スタート（７月）し、配送網拡充費用及びみんなの冷蔵庫事業の後方支援
	8月	農林水産大臣感謝状	令和6年能登半島地震被災地への飲食料品等を提供したことが評価され農林水産大臣感謝状いただく。
	12月	お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるようお正月用の食料品支援。
	12月	熊本県(菊池市)お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるよう、熊本工場よりお正月用の食料品支援。一般社団法人ひのくにスマイルプロジェクトの登録団体を通して、お正月用支援品をお届けする。
2025年	7月	マクドナルドお食事券　贈呈　5回目	日本マクドナルド株式会社または60の企業及び個人の支援により、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県４県内の子ども食堂へ「マクドナルド食事券」を寄贈。
	12月	熊本県(菊池市)お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるよう、熊本工場よりお正月用の食料品支援。一般社団法人ひのくにスマイルプロジェクトの登録団体を通して、お正月用支援品をお届けする。
	12月	お正月商品支援	12月30日 希望を持って新年を迎えて頂けるようお正月用の食料品支援。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

こども食堂支援活動企業①

おいしい かんどう ずっといつまでも

No.	企業名	本社(本部)所在地	代表取締役社長	HPアドレス
1	カネハツ食品株式会社	名古屋市南区	加藤英敏	https://www.kanehatsu.co.jp/
2	イチビキ株式会社	名古屋市熱田区	中村光一郎	https://www.ichibiki.co.jp/
3	ダイニチ食品株式会社	愛知県東海市	磯貝幸弘	http://www.dainichi-foods.co.jp/
4	株式会社丸越	名古屋市天白区	野田明孝	http://www.marukoshi.co.jp/
5	株式会社合食	兵庫県、東京都	砂川雄一	https://www.goshoku.co.jp/
6	有限会社森山食品	名古屋市中川区	森山由一	
7	玉三屋食品株式会社	名古屋市千種区	松岡宗之介	https://tamamiya.co.jp/
8	株式会社浜乙女	名古屋市中村区	服部義博	https://www.hamaotome.co.jp/index.html
9	株式会社タムラシステムサービス	名古屋市南区	田村昭三	http://tamura-system.com/index.html
10	キューピー株式会社　名古屋支店	名古屋市千種区	髙宮 満	https://www.kewpie.com/
11	中部食糧株式会社	名古屋市中村区	水井雅博	http://www.chushoku.jp/
12	株式会社ミノヤランチサービス	愛知県尾張旭市	酒井益幸	https://www.378.jp/
13	株式会社アサノ食品	名古屋市中川区	浅野正成	http://www.asano.ne.jp/
14	横浜低温流通株式会社	神奈川県厚木市	伊澤　進	http://www.ytr.co.jp/

（各社活動内容）
※1～6社は隔週水曜日カネハツ食品(株)配送センターより食糧支援。
※玉三屋食品株式会社様は週3（火・木・金）柳橋市場店より食糧支援。
※株式会社浜乙女様は3月17日より食糧支援開始。
※株式会社タムラシステムサービス様は3月4日より隔週木曜日に食材を配送。
　大型冷蔵庫設置されたこども食堂関連施設4か所からスタート。
※キューピー様3月31日より食糧支援開始。
※中部食糧様、ミノヤランチサービス様、アサノ食品様は5月12日よりお米の支援開始。
※横浜低温流通様は出庫料等の手数料や、お米等名古屋から厚木までの配送料等ご協力いただきます。
　8月中旬より太田区だんだんこども食堂様、おおたラーメンこども食堂様、日野市フードバンクTAMA様への配送もご協力いただきます。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

こども食堂支援活動企業②

No.	企業名	本社(本部)所在地	代表取締役社長	HPアドレス
15	ヤマダイ食品株式会社	三重県四日市市	樋口智一	https://www.yamadai.jp/
16	株式会社 まつおか	愛知県名古屋市	松岡まち子	https://www.souzai-matsuoka.com/
17	カゴメ株式会社	愛知県名古屋市	山口　聡	https://www.kagome.co.jp/
18	キユーピーみらいたまご財団		長南収 財団理事長	https://www.kmtzaidan.or.jp/index.html
19	株式会社佐々商店	埼玉県越谷市	佐々重雄	http://www.sasa.co.jp/
20	青柳食品株式会社	千葉県香取市	徳永伸一郎	http://www.aoyagi-food.co.jp/
21	菊池食品工業株式会社	東京都板橋区	菊池　光晃	https://www.kikuchi-shokuhin.co.jp/
22	勝木食品工業株式会社	東京都江戸川区	勝木　秀昭	http://www.katsuki-foods.co.jp/index.html
23	名城食品株式会社	愛知県知多郡	藤原　正敏	https://www.meijo.co.jp/
24	石井食品株式会社	千葉県船橋市	石井 智康	https://www.ishiifood.co.jp/
25	フジッコ株式会社	神戸市中央区	福井　正一	https://www.fujicco.co.jp/
26	株式会社 北部市場運送	大阪府茨木市	黒田 敬弘	http://hokuichi.co.jp/

(各社活動内容)
※ヤマダイ食品様は6月より冷凍惣菜の食糧支援していただいています。
※まつおか様は多額の支援金のご協力いただいています。
※カゴメ様は6月中旬より食糧支援いただいています。
※キユーピーみらいたまご財団様は6月中旬より食糧支援いただいています。
※佐々商店様、青柳食品様、菊池食品工業様、勝木食品工業様は2021年7月18日東京都港区開催の「お福わけフードパントリー」に食糧支援いただきました。
※石井食品様より7月からミートボールなどの食糧支援いただいています。
※名城食品様より7月麺類食糧支援いただきました。9月から名古屋と大阪の2拠点で本格的な食糧支援がスタートします。
※8月フジッコ様からヨーグルト(ヨープレイト)の支援いただきました。
※北部市場運送様は出庫料等の手数料や「こどもの居場所サポートおおさか様」までの配送料をご協力いただいています。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

こども食堂支援活動企業③

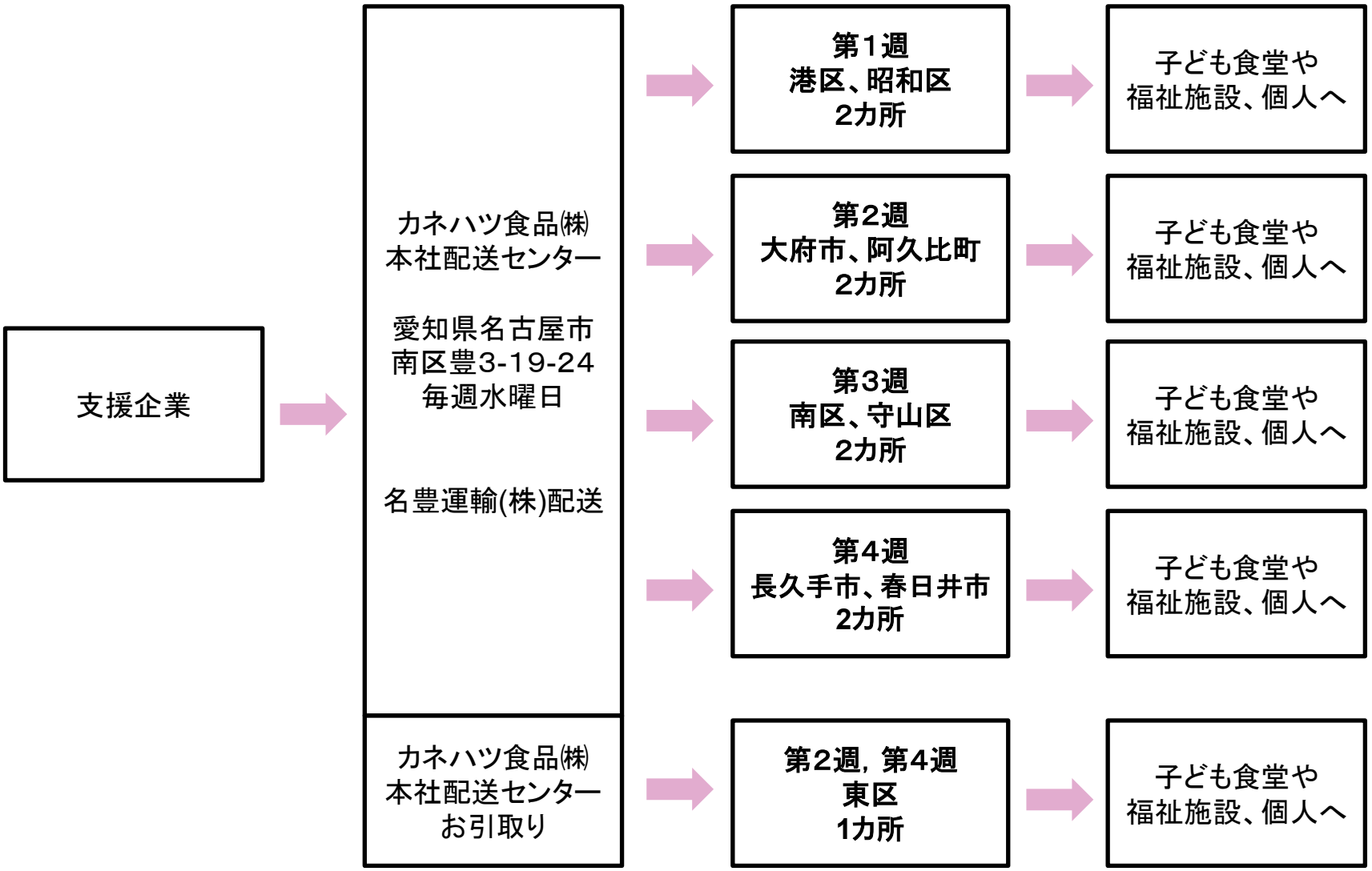
No.	企業名	本社(本部)所在地	代表取締役社長	HPアドレス
27	株式会社つかもと	茨城県龍ヶ崎市	塚本　裕	https://shop.ama710.com/
28	株式会社米倉商店	名古屋市南区	米倉　裕貴	
29	株式会社浜幸	知多郡南知多町	濱本　けい子	https://www.tsukudanikaido.jp/
30	株式会社ミクロ	山形県天童市	鎌田　儀一	https://www.mikuro.co.jp/
31	株式会社松川屋	埼玉県三郷市		http://www.matsukawaya.com/
32	佃屋食品工業	東京都江東区		https://tsukudaya.official.ec/
33	株式会社サンワ	愛知県名古屋市	吉田 真宏	http://www.sanwa1926.com/
34	株式会社かね貞	愛知県みよし市	松原　有隆	https://www.kanesada.com/
35	岩田食品株式会社	愛知県一宮市	岩田　晃明	http://www.iwatafoods.co.jp/index.html

(各社活動内容)
※つかもと様は10月開催の東京都大田区フードパントリーより甘納豆の食糧支援いただいています。
※米倉商店様は10月開催の名古屋市南区フードパントリーよりらっきょうの食糧支援いただいています。
※浜幸様は10月開催の名古屋市南区フードパントリーより魚介佃煮の食糧支援いただいています。
※ミクロ様は10月開催の名古屋市南区フードパントリーよりザーサイの食糧支援いただいています。
※松川屋様は11月開催東京都大田区フードパントリーより豆菓子の食糧支援いただいています。
※佃屋食品工業様は11月開催東京都大田区フードパントリーより煮豆の食糧支援いただいています。
※サンワ様は2022年3月にマスク、アルコール消毒液をご支援いただきました。
※かね貞様は愛知子ども応援プロジェクトにおでん等ねり製品をご支援いただいています。
※岩田食品株式会社様は2023年1月より食糧支援いただいています。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

●食料支援　フロー　2024年4月～

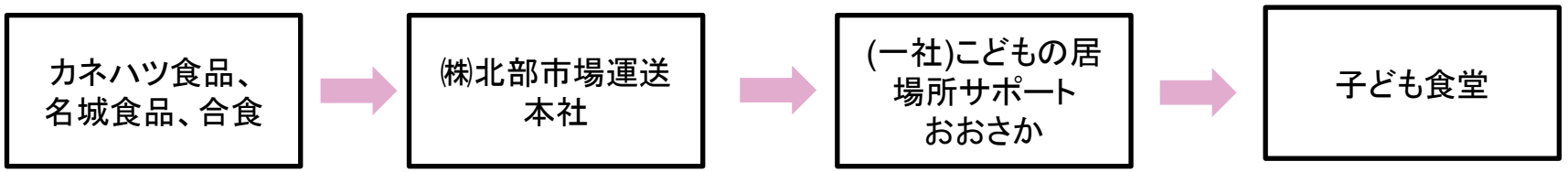
【東海地区】



Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

●食料支援　フロー　2024年4月～

【関西地区】

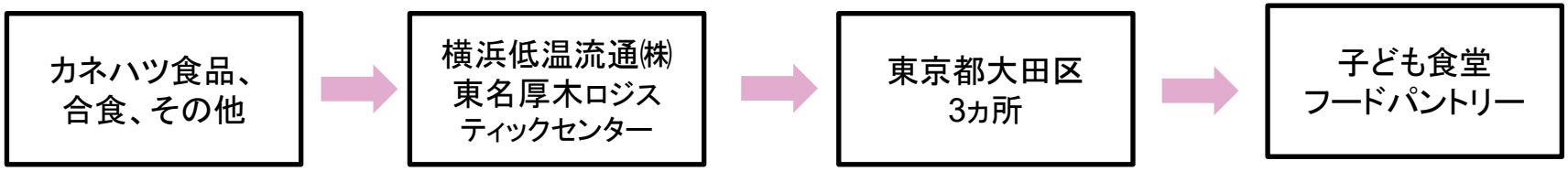


大阪府茨木市島3
丁目12-25
毎週木曜日出荷

大阪市西成区
松1-2-7

大阪府内約150カ所

【関東地区】



神奈川県厚木市船子114　第2・第4
土曜日大田区・月曜日多摩地区出荷

大田区

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

支援品記録①（名古屋出荷分）

おいしい かんどう ずっといつまでも

●過去の食糧支援数量及び金額（卸価格で算出）

年	月	数量	推定金額	年	月	数量	推定金額	年	月	数量	推定金額
2020	12	13,281	2,510,700								
2021	1	17,847	1,882,565	2023	1	27,254	3,562,646	2025	1	16,014	2,350,220
	2	12,291	1,477,280		2	47,739	3,755,478		2	6,024	895,055
	3	22,364	2,843,142		3	34,201	2,764,278		3	6,605	950,022
	4	23,830	2,615,150		4	12,547	1,418,060		4	7,237	980,120
	5	18,967	2,090,810		5	17,037	2,075,382		5	14,588	1,964,940
	6	19,506	2,539,980		6	23,177	2,700,366		6	6,640	748,400
	7	15,010	2,453,800		7	15,558	1,844,830		7	8,155	942,505
	8	31,366	3,493,400		8	16,972	2,136,376		8	6,660	746,092
	9	11,193	1,227,710		9	29,292	3,125,384		9	17,080	2,022,718
	10	17,292	2,396,840		10	16,200	2,184,400		10	10,054	1,605,296
	11	13,620	1,512,724		11	14,875	2,289,882		11	17,090	2,231,018
	12	22,575	4,179,290		12	23,859	6,059,436		12	21,246	4,005,993
	合計	239,142	31,223,391	総計		278,711	33,916,518	総計		137,393	19,442,379
2022	1	23,396	3,014,810	2024	1	9,158	1,009,100		1	18,996	2,429,585
	2	20,993	3,969,238		2	9,227	1,736,133		2	6,321	1,090,209
	3	15,877	2,016,288		3	4,436	652,590		3	7,409	1,155,036
	4	14,977	2,398,840		4	3,454	598,763		4	6,787	990,130
	5	22,476	2,420,860		5	5,237	767,458		5	7,701	915,130
	6	13,582	1,666,320		6	3,324	426,221	総計		47,214	6,580,090
	7	16,705	2,108,020		7	3,166	402,076	総合計		1,040,659	136,065,586
	8	16,999	2,399,980		8	4,479	552,865				
	9	21,530	2,359,772		9	5,628	968,128				
	10	31,077	3,432,414		10	4,094	579,609				
	11	26,930	3,012,484		11	6,329	839,519				
	12	19,216	3,472,548		12	35,909	4,099,172				
	合計	243,758	32,271,574	総計		94,441	12,631,634				

供給元	数量	卸価格推定
カネハツ食品	696,749	93,953,096
名城食品様	137,038	13,629,470
串タツ様/F・O・C様/中部食糧様	35,060	7,713,200
合食様	28,486	3,036,510
岩田食品様	24,330	2,919,600
キユーピー様	24,057	1,809,960
中部食糧様・ﾐﾉﾔﾗﾝﾁ様・ｱｻﾋ食品様・串ﾀﾂ様	6,800	1,384,600
カゴメ様	6,881	1,378,750
遠州屋様	16,843	1,377,300
イチビキ様	14,672	1,290,650
中部食糧様	3,951	1,247,620
フジッコ様	9,364	680,800
石井食品様	4,334	593,400
佐々商店様	1,130	565,000
ヤマダイ食品様	1,524	525,600
串タツ様/F・O・C様	2,330	512,600
浜乙女様	6,198	441,610
かね貞様	3,120	357,000
ｃｔｃ様	2,784	246,720
森山食品様	260	241,800
ピカイチ様	800	240,000
丸越様	2,177	217,680
中部食糧様他	475	202,400
QPみらいたまご財団様	1,320	158,400
串タツ様	700	154,000
フードバンク愛知様	1,680	134,400
サンワ様	320	128,000
中部ﾃﾚｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ様	1,224	122,400
串タツ様他	530	116,600
ミクロ様	332	114,240
中部電力ﾊﾟﾜｰｸﾞﾘｯﾄ様	576	86,400
ダイニチ食品様	515	74,000
セカンドハーベスト様	1,200	60,000
水野商店様	560	56,000
玉三屋様食品様	550	55,000
浜幸様	177	53,100
柳風水野商店様	500	50,000
米倉商店様	280	42,000
中部食糧様/ﾒｲｼｮｰ様	140	30,800
コカ・コーラ様	336	26,880
創味食品様	48	7,200
総計	1,040,351	136,034,786

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

支援品記録②（厚木出荷分）

●東京田園調布ロータリークラブなど、東京のロータリークラブ所属メンバー様が中心となって設立された「（※）NPO法人ポセイドン＆チルドレン協会」を通じて、2021年5月13日（木）より弊社の関東方面の物流拠点である横浜低温流通株式会社（厚木センター）より食糧支援スタートしました。
　子ども食堂第1号で「子ども食堂」の名付け親である近藤博子様が運営する「だんだん子ども食堂」様や東京都大田区の困難家庭が多い地域で活動されている「ラーメン子ども食堂」様など、関東方面でも支援活動を定期的に実施していく予定です。

●食料支援スタート時は東京ロータリークラブ関係者様が横浜低温流通厚木センターまでお引き取り頂いていましたが、横浜低温流通様のご協力により支援先への無料配送実施し、支援先の拡充も図っています。
2021年8月14日～「だんだん子ども食堂」「おおた区ラーメン子ども食堂」（東京都大田区）
2021年8月30日～「フードバンクTAMA」（東京都日野市多摩平）
「ひまわり苑」
「コスモス苑」
「東六郷老人いこいの家（有隣協会）」

（※）NPOポセイドン＆チルドレン協会は、大田区の子ども食堂をお応援すると共に、お福わけフードパントリーを開催し、子どもたちへの食の支援とフードロス削減に貢献し、子どもたちの安心で明るい未来を育むことを目的とする団体です。また、子どもたちに自然活動等を通じて生活の貧困と同様に経験の貧困から脱却を図る体験等を提供する活動も行っています。

お福わけフードパントリーをご利用いただいた方からレビューはコチラ➡

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

支援品記録②（厚木出荷分）

●過去の食糧支援数量及び金額（卸価格で算出）

年	月	数量	推定金額	年	月	数量	推定金額
2021	5	2,723	327,830	2024	1	2,349	324,582
	6	2,092	412,510		2	6,467	692,066
	7	4,675	822,790		3	2,114	310,600
	8	5,578	646,580		4	1,800	181,686
	9	12,394	1,275,674		5	2,118	425,696
	10	6,150	1,030,618		6	1,514	239,352
	11	6,116	816,360		7	1,210	189,886
	12	3,918	664,670		8	6,632	916,984
	合計	43,646	5,997,032		9	4,962	743,782
2022	1	6,116	950,830		10	2,730	502,644
	2	4,352	669,540		11	2,662	446,746
	3	11,656	1,590,870		12	3,335	649,512
	4	4,460	478,100		合計	37,893	5,623,536
	5	4,218	569,010	2025	1	3,304	474,788
	6	4,856	720,110		2	1,890	386,114
	7	3,716	454,990		3	1,734	372,896
	8	6,816	714,940		4	730	87,200
	9	4,910	688,150		5	898	106,600
	10	6,804	939,196		6	1,328	131,008
	11	3,854	550,016		7	888	98,500
	12	4,206	446,230		8	2,696	420,820
	合計	65,964	8,771,982		9	3,257	503,804
2023	1	5,344	832,060		10	3,042	537,086
	2	2,812	477,200		11	2,708	400,960
	3	1,088	193,078		12	1,003	352,360
	4	3,898	328,034		合計	23,478	3,872,136
	5	2,440	368,200	2026	1	4,313	827,080
	6	3,100	555,976		2	1,152	193,080
	7	2,064	253,330		3	1,160	215,160
	8	1,780	223,060		4	962	173,180
	9	3,022	490,834		5	906	144,708
	10	3,260	419,890		合計	8,493	1,553,208
	11	2,066	335,280	総合計		211,982	30,469,956
	12	1,634	175,120				
	合計	32,508	4,652,062				

支援回数　合計122回

メーカー	数量	卸価格推定
カネハツ食品	133,272	18,629,042
合食様	22,578	2,939,534
ポセイドン様	9,498	2,089,560
フジッコ様	11,194	992,960
ヤマザキ様	7,744	957,600
中部食糧様	3,394	711,000
名城食品様	5,832	694,890
石井食品様	5,630	507,080
深川青果様	1,211	427,290
深川果実様	131	289,000
田園調布ロータリークラブ様	750	220,000
勝木食品工業様	1,250	204,000
野田彦様	518	185,040
高沢食品様	660	165,000
みやけ食品様	1,214	124,040
丸由海産様	227	121,280
佐々商店様	808	111,960
大谷政吉商店様	440	110,000
丸安商店様	440	110,000
オオタニ様	440	110,000
ミクロ様	220	105,400
青柳食品様	550	99,000
菊池食品工業様	1,000	90,000
イチビキ様	428	84,980
マルハニチロ様	400	70,000
岡崎物産様	432	58,104
浜乙女様	400	48,000
松川屋様	300	45,000
マルシンフーズ様	108	40,932
ふじや食品様	200	35,200
佃屋食品工業様	200	30,000
つかもと様	200	30,000
竹屋様	208	17,264
東洋水産様	105	16,800
総計	211,982	30,469,956

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

支援品記録③（大阪出荷分）

●2021年8月3日（木）より弊社の関西方面物流拠点である「株式会社北部市場運送様」（大阪府茨木市島）に配送の協力いただき食糧支援スタート。
配送先である「こどもの居場所サポートおおさか」様（大阪市西成区）を拠点に関西方面でも支援活動を定期的に実施していく予定。

●食糧支援数量及び金額（卸価格で算出）　支援回数　合計241回

年	月	数量	推定金額	年	月	数量	推定金額
2021	8	9,576	932,434	2024	1	4,272	627,729
	9	7,949	833,448		2	4,258	645,884
	10	3,555	436,308		3	6,429	980,407
	11	2,586	410,608		4	5,874	722,536
	12	8,632	1,686,612		5	5,344	862,774
	合計	32,298	4,299,410		6	1,781	245,622
2022	1	4,278	608,524		7	2,228	254,281
	2	6,105	4,539,806		8	2,784	345,808
	3	4,251	799,956		9	3,750	405,271
	4	5,833	689,129		10	2,817	390,586
	5	5,609	692,882		11	2,218	276,611
	6	7,373	958,069		12	2,440	383,953
	7	5,850	648,257		合計	44,195	6,141,462
	8	12,719	1,318,395	2025	1	1,491	231,383
	9	9,030	835,022		2	2,183	301,638
	10	6,117	972,482		3	2,155	260,237
	11	8,345	1,314,826		4	6,010	844,073
	12	10,304	1,892,110		5	4,363	579,596
	合計	85,814	15,269,458		6	3,817	533,833
2023	1	13,571	1,679,682		7	5,144	948,692
	2	7,342	1,847,475		8	3,846	757,426
	3	11,373	2,466,148		9	5936	899,747
	4	4,352	563,263		10	10,816	1,693,319
	5	3,979	626,714		11	4,948	753,194
	6	9,757	1,205,823		12	4,199	670,156
	7	4,167	594,832		合計	54,908	8,473,294
	8	10,740	23,717,855	2026	1	3,484	696,163
	9	5,053	608,857		2	1,949	363,180
	10	2,981	462,441		3	1,768	318,578
	11	10,516	23,785,168		4	1,949	308,728
	12	10,589	17,167,378		5	1,501	245,449
	合計	94,420	74,725,636		合計	10,651	1,932,098
				総合計		322,286	110,841,358

メーカー名	数量	推定価格
カネハツ食品	209,256	97,392,422
名城食品様	67,872	8,833,652
合食様	24,144	2,230,384
フジッコ様	15,106	1,750,310
勝木食品工業様	800	109,000
石井食品様	600	80,000
ミクロ様	892	73,600
イチビキ様	775	72,720
中部食糧様	630	63,000
マルワ様	579	57,900
菊池食品工業様	400	40,000
柳本様	400	40,000
ダイニチ食品様	319	31,900
キユーピー様	189	27,870
佐々商店様	200	20,000
米倉商店様	124	18,600
総計	322,286	110,841,358

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

支援品記録④（熊本出荷分）

●2022年12月30日（金）に「一般社団法人ひのくにスマイルプロジェクト（※）」（熊本県菊池市）を通じて、おせち食材をこども食堂利用者に食糧支援を実施。

（※）ひのくにスマイルプロジェクトは熊本県菊池市にて、ひのくにスマイル食堂（子ども・地域食堂）・フードバンクひのくに（フードバンク活動）・熊本県北部こども食堂ネットワーク きっずネットちゃとわ・子育て講座・子育て相談会・災害救援活動などを通して、笑顔を届ける活動を行っています。

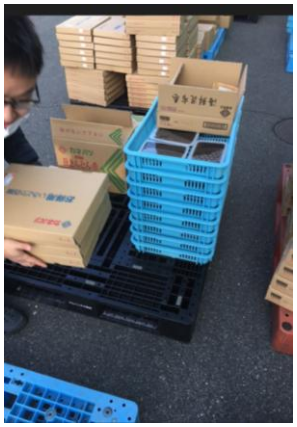
●食糧支援数量及び金額（卸価格で算出）

回数	開催日時	支援先	数量	推定価格
第1回	2022年12月30日（金）	ひのくにスマイルプロジェクト様引取り	2,849	1,344,235
第2回	2023年12月30日（土）	ひのくにスマイルプロジェクト様引取り	1,125	1,309,296
第3回	2024年12月30日（月）	ひのくにスマイルプロジェクト様引取り	966	522,174
第4回	2025年12月30日（火）	ひのくにスマイルプロジェクト様引取り	1,621	827,215
総計			6,561	4,002,920



（2025年12月31日ひのくにスマイルプロジェクト茶木谷様からの内容）
平素より大変お世話になっております。誠にありがとうございます。
本年は、626.177kgものご寄贈を賜り、心より感謝申し上げます。
しかしながら、当団体といたしましては、近年、寄贈量が少しずつ減少している状況にあります。
また現在、支援者数および支援団体数は増加しており、今後さらに寄贈量を増やしていくための方策について、思案を重ねております。
今後とも、皆様からのお知恵を拝借しながら、より多くの方々に笑顔と希望をお届けできるよう、尽力してまいりたい思っております。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。

茶木谷



Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

支援記録　カネハツ食品本社配送センターにて

















Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

支援記録　玉三屋食品様　柳橋市場店にて









Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

愛知県立大学教育福祉学部 野田博也准教授の研究室



2021年4月15日

野田先生のゼミ学生へ企業と子ども食堂支援の関わりについて講話

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2021年7月18日　東京都大田区フードパントリー













お米やお惣菜など限定250セットを無料でお裾分けするイベントにも参加。
青柳食品様「魚佃煮類」、佐々食品様「あんみつ、杏仁豆腐」、勝木食品様「佃煮類」2種類、
菊池食品様 「煮豆類」と多くの食糧支援いただきました。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2021年7月24日　名古屋市南区フードパントリー

















限定50世帯に無料でお裾分けするイベントに加藤社長も参加。中部食糧様、串タツ様からの「お米」や名城食品様「麺類」、石井食品様「ミートボール」、お惣菜など食糧支援品をセット、射的やボールすくいなどのゲームなど会場設営のお手伝いさせていただく。今後も愛知県子ども応援プロジェクト有志の会や南区社会福祉協議会、地元学区関係者と交流を図りつつ、同様のイベントに協力していきます。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2021年11月1日　マクドナルドお食事券贈呈式

マクドナルドお食事券



当日の様子



左：日本マクドナルド(株)中日本地区本部河野辺上席部長
右：一般社団法人つなぐ子ども未来代表安藤様



お食事券を手にして笑顔の子供たち

日本マクドナルド株式会社様および愛知県下の11社2団体（※1）は、愛知県内の子ども食堂への支援として、「マクドナルド食事券」5,000人分を寄贈させていただくこととなり、11月1日(月)16時に愛知県名古屋市の一般社団法人つなぐ子ども未来(つなぐハウス)にて、贈呈式を開催。

今回の支援の経緯は、カネハツ食品株式会社加藤英敏代表取締役社長より「食の楽しみの一つとして選択できる楽しみ（どっちを食べようかな？など）を子ども達に味わってほしい」との発案から、日本マクドナルド社様へお声がけしたところ、「ビッグマックセット」または「てりやきマックバーガーセット」いずれかを選べる600円相当の「お食事券」を5000人分ご支援が実現。
総額300万円の内、半額の150万円はマクドナルド社様のご協賛、残り150万円分を愛知県下の11社様と2つの食品業界団体様（※1）から子ども食堂支援の趣旨をご理解・ご協賛を賜り、贈呈式を執り行う運びとなる。

（※1）愛知県下協賛企業11社及び食品業界団体2団体
　玉三屋食品株式会社、株式会社ミノヤランチサービス、有限会社水上食品、株式会社新川食品、株式会社アサノ食品、ヤマダイ食品株式会社、株式会社小林つくだ煮、株式会社まつおか、株式会社小松屋食品、株式会社セキヤ食品工業、カネハツ食品株式会社、一般社団法人日本惣菜協会、愛知県調理食品工業協同組合

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2022年7月19日　マクドナルドお食事券贈呈式

マクドナルドお食事券



当日の様子



日本マクドナルド株式会社および愛知、三重、岐阜県下の29社3団体（*1）は、東海3県内の子ども食堂への支援として、「マクドナルド食事券」13,000人分を「子ども応援ネットワーク団体」に寄贈させていただくこととなり、7月19日(火)15時より愛知県海部郡のマクドナルド大治店にて贈呈式を開催。

（*1） 協賛企業及び団体一覧

株式会社アサノ食品、株式会社後藤食品、村松食品工業株式会社、合資会社濱金商店、株式会社新川食品、貝新物産株式会社、松田食品株式会社、株式会社丸安今井商店、株式会社マルワ、株式会社伊藤食品、株式会社セキヤ食品工業、株式会社まつおか、カネハツ食品株式会社、ヤマダイ食品株式会社、株式会社カネツジ、株式会社合食、有限会社カクニンベンうさぎ屋食品、株式会社塩義、大丸松下食品株式会社、有限会社森山食品、株式会社丸越、株式会社米倉商店、株式会社ヤマザキ、玉三屋食品株式会社、株式会社ミノヤランチサービス、株式会社あじわい亭、株式会社総本家新之助貝新、株式会社小松屋食品、中部食糧株式会社、愛知県調理食品工業協同組合、一般社団法人日本惣菜協会、惣菜研究会(日本惣菜協会有志会)

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2023年7月　マクドナルドお食事クーポン券　配布

マクドナルド　スペシャルクーポン券



日本マクドナルド株式会社および愛知、三重、岐阜県下の28社2団体(*1)は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県4県の子ども食堂への支援として、「マクドナルド子ども応援スペシャルクーポン」17,000人分を「子ども応援ネットワーク団体」に寄贈。4県163ヶ所の子ども食堂に配布。

(*1)　協賛企業及び団体一覧
株式会社アサノ食品,株式会社後藤食品,村松食品工業株式会社,合資会社濱金商店,株式会社新川食品,貝新物産株式会社,松田食品株式会社,株式会社丸安今井商店,株式会社マルワ,株式会社伊藤食品,株式会社セキヤ食品工業,株式会社まつおか,カネハツ食品株式会社,ヤマダイ食品株式会社,株式会社カネツジ,株式会社合食,有限会社カクニンベンうさぎ屋食品,株式会社塩義,大丸松下食品株式会社,株式会社丸越,株式会社ヤマザキ,玉三屋食品株式会社,株式会社ミノヤランチサービス,株式会社あじわい亭,株式会社総本家新之助貝新,株式会社小松屋食品,中部食糧株式会社,株式会社小林つくだ煮,愛知県調理食品工業協同組合,惣菜研究会(日本惣菜協会有志会)

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2024年7月23日　マクドナルドお食事券贈呈式

マクドナルドお食事券



当日の様子





日本マクドナルド株式会社および愛知、三重、岐阜県、静岡県、石川県下の53社（*1）は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県4県内の子ども食堂への支援として、「マクドナルド食事券」15,000人分を夢つなぐプロジェクト（愛知）、一般社団法人こどもがセンター（岐阜）、三重 こ ども食堂ネットワークを通じて地域の子ども食堂に寄贈。7月23日(火)14時から愛知県豊川市のマクドナルド豊橋曙町店にて贈呈式を開催。

（※1）カネハツ食品株式会社 株式会社アサノ食品 株式会社後藤食品 村松食品工業株式会社 株式会社新川食品 貝新物産株式会社 松田食品株式会社 株式会社丸安今井商店 株式会社マルワ 株式会社伊藤食品 株式会社セキヤ食品工業 株式会社まつおか ヤマダイ食品株式会社 株式会社カネツジ 株式会社合食 有限会社カクニンベンうさぎ屋食品 大丸松下食品株式会社 株式会社丸越 株式会社ヤマザキ 株式会社ミノヤランチサービス 株式会社あじわい亭 中部食糧株式会社 株式会社小林つくだ煮 名古屋佃煮工業株式会社 栗木食品株式会社 株式会社ミクロ 株式会社マルシメ21 寺師 笙子 大畑食品株式会社 佃食品株式会社 株式会社十字屋 株式会社味の近岡屋 辰巳屋食品 株式会社野田彦 イチビキ株式会社 深川果実有限会社 株式会社小松屋食品 玉三屋食品株式会社 名西株式会社 株式会社トクエイ 新大和税理士法人 株式会社りさ枝 一般社団法人・ライフ予防医学センター 株式会社OHS 三興工業株式会社 株式会社K'Sアソシエイト 共栄タイヤサービス株式会社 福松不動産販売株式会社 白藤 憲雄 株式会社中日エムエス 八景印刷株式会社 加藤 英敏 知多工業株式会社

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2021年12月30日　お正月商品支援

①お餅＆海苔セット





②年越しそば



③おせち料理各種





当日の様子







希望を持って新年を迎えて頂けるよう、お正月用の食料品支援。
お多くの企業様のご支援を賜り、上記商品を支援実施いたしました。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2022年12月20日～25日「クリスマスケーキ」寄贈事業

おいしい かんどう ずっといつまでも

愛知県下の子ども食堂や学習支援団体の後方支援をしている団体通じて困難家庭776軒に「クリスマスケーキ寄贈事業」を実施。

ご家族でケーキを囲んで過ごすひとときは、お子さんの心を豊かに育てることに繋がり、また子ども食堂の運営者が直接お届けすることにより、より繋がりを深め、地域での孤立・孤独を防ぐ一助となることも願っての寄贈事業。

カネハツ食品株式会社加藤英敏代表取締役社長が敷島製パン株式会社様と株式会社ヤマナカ様のご協力を取り付け、Pascoクリスマス苺ケーキ（5号約15cm）をこども食堂が希望するヤマナカ様の店頭で受け取るスキームを構築。定価2,680円（税別）のクリスマス苺ケーキ5号（約15cm）を割引価格で購入し、776軒のご家庭にお届け。下記の企業・個人からのご協賛により実現。

- 愛知子ども応援プロジェクトが子ども食堂から、希望数を集約。
- ヤマナカ様へ、総数発注＆受け取り希望日　希望店舗を連絡。
- 子ども食堂が、最寄りのヤマナカの店舗で受け取り、各家庭へ配布。



敷島製パン
クリスマス苺5号
（直径15cm）

【協賛】愛知県下の企業、団体、金融機関など25団体　（12月7日現在）

株式会社まつおか、カネハツ食品株式会社、株式会社あいち研醸社、医療法人清須呼吸器疾患研究所、株式会社エスケイティー、株式会社いずみ、常盤工業株式会社、常滑ロータリークラブ有志、花井洋一税理士事務所、清須山王王宮日吉神社、株式会社遠州屋、あゆの風法律事務所、ホシザキ株式会社、公認会計士二村友佳子オフィス、エレックヒシキ株式会社、株式会社あま土地、株式会社アスカ、株式会社田丸屋本店、有限会社橋本商会、ハジメ産業株式会社、浜松東ロータリークラブ神谷竹彦、森谷ワカ、榊原洋子、リンタツ株式会社、エイディシーテクノロジー株式会社

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

（メディア）2社

CBCテレビ：2020年12月27日夕方ニュース
　困っている家庭の子におせちを　名古屋のカネハツが子ども食堂を通じ提供
中日新聞：2021年3月掲載、2021年11月、2021年12月

（業界紙）6社

食品経済新聞：2021年1月25日掲載
日本流通新聞：2021年1月27日掲載
日本食糧新聞：2021年2月22日掲載
食糧新聞社　：2021年3月11日掲載
中日新聞社　 2021年4月3日掲載
中部経済新聞：2021年4月16日掲載
中日新聞　　：2022年7月20日号　掲載
中日新聞　　：2023年6月12日号　掲載
食料新聞　　：2023年11月11日掲載

（情報誌）1社

月刊東海財界：2021年5月号

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

食品経済新聞:2021年1月25日掲載

カネハツ食品

子ども食堂を支援

継続的に商品を無償提供



ボランティアスタッフと


商品を詰め込む加藤社長（中央）

カネハツ食品㈱（名古屋市南区、加藤英敏社長）は、社会貢献活動の一環として、生活困窮者を支援しようと、昨年12月から2週間ごとに県内の「子ども食堂」へ佃煮、煮豆、惣菜などを寄贈している。1月20日にも5回目となる支援を実施。多くの商品が提供され、延べ3万1000パックを超えた。

「子ども食堂」は地域住民や自治体が主体となり無料または低価格で子どもたちに食事を提供するコミュニティで、全国に約3700カ所、愛知県内だけでも180カ所ある。わが国における子どもの貧困率は13・5％（19年国民生活基礎調査）で7人にひとりの割合となる。

継続的な支援を決めた加藤社長は「国内でこれだけ多くの貧困者を出し、食品メーカーの使命として救済しなければならない。コロナ禍で厳しい状況だが、できるかぎりのことをしたい」と決意を語る。さらに「より多くの企業に支援をお願いしたい」と訴えている。

（萩原章緑）



Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

食品流通新聞：2021年1月27日掲載

「RCC（地域社会共同隊）」を通じて「子ども食堂」に食事支援

愛知県内全てに供給支援目指すも課題多く

カネハツ食品



加藤社長ら（中央）が積み込みを行う

カネハツ食品㈱（本社・名古屋市南区、加藤英敏社長）が「子ども食堂」の活動趣旨に賛同し、同社商品を無償提供することによって子供たちの食事支援に取り組んでいる。

これは同社が、「RCC（地域社会共同隊）」を通じて取り組んでいる奉仕活動で、「RCC（地域社会共同隊）」は、2017年8月に子供食堂支援のために結成され、隊員である「子ども食堂」運営者らと共に活動している。

同社配送センターを利用した食事支援は、昨年12月よりスタートしており、去る1月20日で第5回目を迎えた。配られたのは同社で製造された煮豆や佃煮、惣菜など。全5回で計3万1128パック（439万3265円）が提供され、愛知県内各所の支援先のご家庭に1セットずつ配送された（通常は子ども食堂で提供されるところ、コロナ禍で活動が出来ないことから、現在各家庭に配られている）。

加藤社長は、「ネットワーク構築を行い、愛知県内の子ども食堂全てに供給支援できる体制づくりをしたいが、まだ各地との情報共有が十分に出来ていない。支援自体も困難を要し、円滑な支援には配送拠点や冷蔵設備の設置が不可欠だが、個人情報の問題もあり支援自体が出来ない場合も依然多い」と課題を挙げる。

昨年から続くコロナ禍にあって、「子ども食堂」自体がこれまで同様の活動が出来ないなど、これまで以上に支援が求められる状況となっており、カネハツ食品らと共に活動に賛同する企業への協力が求められている。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本流通新聞:2021年2月22日掲載

子ども食堂へ無償提供継続

カネハツ食品

【中部】カネハツ食品（名古屋市南区）は3日、12月1日に始めた「子ども食堂」運営事業者などへ自社商品の無償提供を実施した。月2回の隔週水曜に同社配送センターから支援者に渡し、同日で6回目となった。

配られたのは同社で製造された煮豆、サラダ惣菜、佃煮、業務用商品など。6回までで計3万5000パック（484万円）が提供され、愛知県内の支援先の家庭に配送されている。コロナ禍で通常にリーフタイプ、ティーバッグタイプの紅茶も購入金額前年比108%と好調だった。特に営業職は最も高い115%の伸長率だった。この層がさらにひと手間かけて飲むタイプを好み、市場をけん引していたのかもしれない。世の中が変われば市場も動く。動いた市場は誰が変えている



食材を積み込む加藤英敏社長

の子ども食堂での提供は実施されないところも多く、各家庭への配送も実施している。

また、子ども食堂など各拠点に冷蔵庫を設置する資金を募ることを検討している。喫緊の課題として、夏に向けての温度管理など配送や配送拠点、資金、持続可能な支援体制づくりと課題はある。

加藤英敏社長は「街頭募金もコロナの影響で大幅に縮小し、ボランティアで運営される子ども食堂の活動が停滞している中、おかず食材の供給をしている。現在、業界内で賛同の輪が広がり、食以外にも複合的に取り組んでいる。今後も継続したい」と話した。

（藤田順也）

UP(SLIM) スリム
豊富なサイズを取り揃えております。
お気軽にお問合せ下さい。
の超極薄嵌合!!
株式会社北原産業
倉敷市新倉敷駅前5丁目141番地
(代)　FAX:(086)525 1322

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

食料新聞：2021年3月11日掲載

紙面から

・全調食、ホームページをリニューアル …… 2面
・シンコ漁が6日解禁 …… 2面
・有限会社やま重（滋賀県草津市）、活鯉や鮒原料で食文化支える …… 2面
・小売版 …… 3面
・データファイル 漬物JAS依頼検査実績（2021年1月） …… 2面、総務省、食料家計調査（同） …… 4面

刻み漬は福神漬や胡瓜・茄子など、内食需要増で、微増となっている。粕漬カテゴリーは奈良漬、わさび漬など、土産物や外食向けがコロナによる影響を受け、やや減少している。

みそ漬は、メディアで取り上げられた健康性が認識され、売上を伸ばした。にんにく漬も内食の底堅い需要に支えられ、売上が伸長している。その他カテゴリーでは、従来の範ちゅうにない惣菜風製品等の開発が活発化しており、出荷金額が伸びている。

〈グラフの数字についてご意見・ご要望があれば、当社ホームページ問合わせフォームからメールでお寄せ下さい〉

子ども食堂に食料提供

他企業へ支援の輪広がる

カネハツ食品

カネハツ食品株式会社（加藤英敏社長、愛知県名古屋市）では、コロナ禍により生活困窮者が増加している昨今の状況を受け、昨年12月より隔週水曜日に、同社配送センターにて、子ども食堂運営者らへ佃煮・煮豆・惣菜を始めとした食料品の無償提供をスタート。3月4日までに計10回の配布を行い、5万1321パック（668万4205円）を寄贈した。

「RCC（ロータリー地域社会共同隊）」として始まった取組みに、カネハツ食品が賛同。"生活困窮者を支援していくのは企業としての使命"と考える加藤社長の呼びかけもあり、ここにきて支援の輪が大きく広がり始めている。

2月17日の配布から、活動に賛同するイチビキ、森山食品、ダイニチ食品、丸越、合食、浜乙女などの有



3月3日の第9回配布（左から3人目が加藤社長）



佃煮を積み込む加藤社長

カメーカーも食料品を提供している他、名古屋市の柳橋中央市場では2月18日より週3回を目途に、玉三屋食品が惣菜の無償提供をスタートしている。

また、支援は子ども食堂だけに留まらず、生活に困窮する大学生向けにも実施され、これまでに志學館大学と名古屋市立大学の学生に配布が行われた。

無償配布と共に、支援者が食料品を受取りやすくするためのシステム作りも進む。冷蔵庫を設置した拠点を愛知県内各所に整備し、三重県・岐阜県・静岡県といった隣県からも食料を引き取りに来られるシステムの構築を目指している。3月4日からは、4拠点への配送がスタート、5月を目途にさらに10カ所を整備し、今後も数を増やしていく計画だ。

加藤社長は、拠点整備と配送費用を確保するため、クラウドファンディングを実施予定、区役所への募金箱設置や法人への寄付依頼も推進する。

また今後は、食料支援と同時に雇用を生み出すことにも力を注ぐ。まずは生活困窮者の親、将来的には生活困窮者自身の仕事探しを支援する。

若手人材が必要な企業へ無償斡旋を行う事で、支援者の働き口確保と企業側の人手不足解消へと繋げていく。企業側は人材採用にかかる経費を削減できるメリットがある。

加藤社長は、「コロナ禍の影響もあり、生活に困っている子どもたちもたくさんいる。単発ではなく継続的に支援していくためには我々1社の力では難しく、是非他の企業さんにも協力をお願いしたい。食料提供による一時的な解決ではなく、今後は衣類やマスク・薬などの提供も行い、最終的には人材採用にも繋げて経済的自立を支援し、社会から貧困を少しでも無くしていけるよう取り組んでいきたい」と話す。

ハートが香るおつけもの
Fujiwara
フジワラフーズ株式会社
〒596-0805
大阪府岸和田市田治米町110
TEL072（445）1707
FAX072（445）0854

"身近な東京"再発見

伝統を今に伝える名品

東京特集

東京ではコロナ禍により大きな変化が起きている。

東京から出て行く人を示す転出者数は昨年、40万1

れてきた江戸甘味噌、江戸東京野菜・練馬大根を用いた練馬沢庵など、伝統技術を生かした製法で現代にまで変わらない価値を伝える名品が揃っている。

特集内では、今改めて注目を集める"東京ブランド"の品々を紹介する。

【東京特集4～6面】

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

東海財界:2021年5月号　掲載

カネハツ食品株式会社代表取締役社長　加藤 英敏



創業８０年。食の未来を考え前進を続ける 子ども食堂や生活困窮者の支援にも尽力

創業８０年を迎えたカネハツ食品（本社・名古屋市南区）。食品会社といえども、この一年のコロナ禍による影響は甚大で、ホテル不況や学校休校などの業務用筋で影響を受けている。しかしカネハツは和惣菜を始めとした新製品の開発などに日々取り組んでいる。また、２０２０年からは新たな取り組みとして、社会貢献活動の一環で生活困窮者支援を２週間に一度、継続的に行っている。

「おいしさ、いきいき、カネハツ」のテレビコマーシャルや、個煮、煮豆、惣菜など、日本の伝統食の販売で中京圏では誰もが知る存在のカネハツ食品。創業は昭和１７年で、今年８０年目を迎えた。

しかしコロナ禍により、取引先のホテルの顧客は大きく減少、人気だったバイキングも休止する所が増えた。小中学校休校のあおりで給食関連の業務用商品の納入も減少。「会社の柱を一つの商品だけにしないことと痛感しました。こうした時期には、補足をいっぱい持っている会社が強くなる。カネハツ食品は個煮、煮豆、惣菜、おせちに続く五番目の柱を探しているところです。簡単には見つかりませんが」と加藤社長。

「生活困窮者の支援は食品会社の責務」

そんな中で加藤社長が熱心に取り組んでいるのが生活困窮者への食糧支援である。「弊社もコロナ禍で厳しい状況にはありますが、食糧支援は食品会社の責務だと認識しています」と、２週間に一度の支援を続けている。既に卸価格で８００万円以上の支援を行ってきた。それだけでなく同じ食品業界の社長にも声をかけて、支援の輪を広げようとしている。

きっかけは名古屋名東のロータリークラブの「子ども食堂支援ＲＣＣ（地域社会共同体）」への協力だった。現在、日本の子どもの貧困率は１３％を超え、子ども食堂の活動が盛んになってきており、ロータリアンである加藤社長にも協力の依頼があった。子ども食堂とは、子どもたちがひとりでも行ける無料または低額の食堂のこと。国内に３７００か所、愛知県内で１８０以上あり、政府支援や募金、寄付などでボランティアが運営してきた。

ところがコロナ禍で子ども食堂の開催も、運営のための募金活動もできなくなり、政府からの補助金や活動資金がほぼゼロになった。加えて１日３食を食べられない子どもや、大人の生活困窮者も激増している。

より大規模な支援活動に



食糧支援の団体がカネハツ本社を訪れ、カネハツの商品を支援物資として積み込む

そこで、子ども食堂での活動を続けてきたロータリークラブが会員などから支援品を募り、個別配送やフードバントリーで、食に困っている人に届ける形をとっている。こうした大規模で継続的な仕組みを作って活動をしているのは、名古屋のロータリークラブだけである。

子ども食堂だけでなく、生活困窮者の支援活動にも、カネハツ食品は食品会社として協力。これまで数万パックの食糧を届けてきた。取材日には約２０団体が、遠くは岐阜や三重からカネハツ食品の食糧支援を受けようと来社し、カネハツ食品社員の協力で、多くの食糧を積み込んでいた。

この日の活動には、加藤社長の呼びかけで、名古屋の老舗食品会社のイチビキや漬け物会社社長も同社に来ていた。今後の活動にも繋がっていきそうである。

「食品会社として当然の取り組みをしてきただけです」

カネハツ食品は、昭和３８年に個煮・煮豆を製造する製造第一工場を建設、翌３９年には早くも「春雨サラダ」「スパゲティサラダ」の生産、４０年には「野菜サラダ」の生産が開始されている。日本の家庭に「サラダ」という言葉がまだ定着しきっていない頃のことだ。

昭和６１年には重箱おせちの生産を開始、平成に入り「サラダに！まめ」を開発、豆をサラダに入れ健康的な食事を、と家庭への提案も前向きに取り組み、弁当用・簡便惣菜、機能性表示食品、大容量惣菜シリーズなども時代のニーズを見ながら次々と発売、家庭への食の提案をしながら販売を拡大してきた。

常に一歩先、半歩先を見て生産を始めているが「どんどん新しい製品を作っていかないと。生き残っていくために、食品会社として当然の取り組みをしてきただけです」と、４代目社長はクールに語った。

創業から８０年、日本人の嗜好は大きく、めまぐるしく変わってきた。以前は豆の味付け関連に１０００トンの砂糖を使っていたが、減塩・低糖が叫ばれるようになり今では３分の１以下の３００トンになった。その分、保存期間も変わってくるため、真空パック包装を採用、汎用性が広がっている。

またカネハツ食品は常に良い食材の生産地を探し続けてきた。昭和４９年には早くも、熊本市に九州の生産拠点を設立。現在ではよりよい原料調達を求めて海外まで赴き、食材の半分は海外原料を使用している。昔ながらの同じ素材を同じ方法で日本の惣菜を作り続けているように見えるが、常に改革の連続なのである。

加えて現在の製品開発やセクション担当者の半数以上が女性で、新商品を次々と生みだしている。同社ホームページでは、商品紹介だけでなくカネハツ食品の商品を使ったお手軽・時短レシピの提案も行ない、ホームページの充実度は主婦の間でも評判である。企業として常に前進しながら、社会貢献活動にも精力的に取り組むカネハツ食品の注目度はどんどん高くなっている。今後の動きにも目が離せない。

（塩崎　文香）

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

●食品新聞　2021年7月19日記事
https://shokuhin.net/45342/2021/07/19/sonota/%E4%BC%81%E6%A5%AD%E6%B4%BB%E5%8B%95/

その他　企業活動

カネハツ食品 子ども食堂支援のハブに 名古屋市内のメーカーから惣菜など集約、13万パック寄付

2021年7月19日



子ども食堂に寄付される佃煮、惣菜など（カネハツ食品）

カネハツ食品（名古屋市南区、加藤英敏社長）は昨年12月から、経済的な理由などで食事がとれない子どもや独居老人らに無料で食事、弁当などを提供している「子ども食堂」の支援に乗り出している。自社で出荷期限の過ぎた商品をはじめ、名古屋市内の惣菜、佃煮、漬物メーカーなどの商品を同社の配送センターに集約し、東海3県の12か所のNPO法人などの拠点を通じて約160か所の子ども食堂に配布。この半年間で延べ13万パック以上の惣菜、佃煮、調味料などを提供している。

出荷期限が過ぎた商品の多くは、賞味期限を過ぎていないにも関わらず廃棄されていた。これらの食品ロスを減らすことに加え、困窮する人を支援するため活動を開始。同社が所属する全国調理食品工業協同組合（全調食）でも支援活動費を予算計上するなど活動参画を呼びかけている。

これまで支援に協力したのは、イチビキ、ダイニチ食品、ヤマダイ食品、丸越、合食、森山食品、玉三屋食品、浜乙女、タムラシステムサービス、キユーピー名古屋支店、中部食糧、ミノヤランチサービス、アサノ食品、横浜低温流通、まつおか、カゴメ、キユーピーみらいたまご財団、NPO法人フードバンクあいち。食品の提供のほか、配送、大型冷蔵庫、支援金などさまざまな形で援助を行ってきた。

現在は、名古屋市、稲沢市、一宮市の4か所に、大型冷蔵庫を設置した活動中継拠点を作り、配送システムを構築。隔週に1回、食品を配送している。

今後は、新しく東海3県の活動中継10拠点に大型冷蔵庫の無償提供を計画。合計14拠点を稼働することで、配送先を拡充していく方針。

一方、東京では5月13日から、東京田園調布ロータリクラブなどのメンバーらが中心となって設立した「NPO法人ポセイドン＆チルドレン」を通じて、物流拠点の横浜低温流通（厚木センター）より食料支援をスタート。関西圏でも支援に向けて動き出している。

さらに、貧困を減らしていくため、子ども食堂を利用している人たちの雇用創出、経済的自立支援も進めている。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

中日新聞:2021年12月31日号　掲載

しい出来。参拝者は高齢者も多いので、若いみなさんの力を受けていい一年にしていただきたい」と話していた。（平木友見子）

おせち料理2000食を子ども食堂に提供

カネハツ食品

子どもたちに正月を楽しんでもらおうと、カネハツ食品（南区豊三）は三十日、県内の子ども食堂十二カ所におせち料理約二千食を贈った。

おせちは、栗きんとんやたつくり、昆布巻きなど八種類。子ども食堂の運営者が同日午前、同社の配送センターで受け取った。子ども食堂を通じて各家庭に配られる。同社の加藤英敏社長（六二）は「日本の伝統文化を理解してもらい、おせちを味わってもらえたら」と話した。

同社をはじめとした食品メーカーなどからは、年越しそばや餅、菓子も子ども食堂に届けられた。（斉藤和音）



子ども食堂運営者の車におせち料理を積み込む社員＝南区豊2のカネハツ食品配送センターで



Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All

食品流通新聞:2021年11月29日号　掲載



加藤カネハツ食品社長の発案で実現

日本マクドナルド㈱と愛知県下の11社ら

子ども食堂支援に賛同

子ども食堂への「マクドナルドお食事券」寄付贈呈式

日本マクドナルド㈱が子ども食堂への食育支援の取り組みに賛同し、「お食事券」が子ども食堂へ寄付された。

その贈呈式が去る11月1日、一般社団法人つなぐ子ども未来（つなぐハウス、所在地・愛知県名古屋市昭和区）で、関係者出席のもと開催された。

◇

今般の「マクドナルドお食事券」の寄付は、カネハツ食品㈱（本社・名古屋市南区、加藤英敏社長）の加藤社長の発案によるもので、愛知県下の11社と2つの食品業界団体もこの取り組みに賛同し、実現した。

贈呈式には、日本マクドナルド㈱を代表して中日本地区本部営業推進部の河野辺孝則部長、カネハツ食品㈱の加藤英敏社長らが出席。

河野辺部長は、子ども食堂支援への初めての取り組み参加に謝意を表すと共に、「おいしさと笑顔」を届ける同社の企業理念のもと、活動継続への意欲を述べた。

また、加藤社長は協賛企業と団体に謝意を述べると共に、このような取り組みを全国へ広げていきたいと強調。

愛知子ども応援プロジェクトへの寄付の内容については、マクドナルドの「ビッグマックセット」、または「てりやきマックバーガーセット」のいずれかを選べる「お食事券」5000人分が用意された。

（続きを第10面に掲載）

子ども食堂へマクドナルドのお食事券が贈呈される

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

中日新聞:2023年6月12日号　掲載

（第3種郵便物認可）　中日新聞

納期切れ食品 捨てず満たす

カネハツ 子ども食堂や独居老人へ

煮豆やつくだ煮などの総菜を手がけるカネハツ食品（名古屋市）が、出荷期限を過ぎた自社の総菜や同業他社の食品を集め、子どもや独居老人らに無料で提供する支援活動を行っている。期限切れ商品は従来、廃棄するかスーパーなどへ「投げ売り」するかだった。必要とされる人たちに届けることで食品ロスを削減できるほか、商品のブランド力向上につながる効果も生まれたという。（石川智規）

食品流通の分野では、製造日から賞味期限までの期間のうち、メーカーは最初の三分の一以内に小売店に納品する「三分の一ルール」という商慣習がある。例えば賞味期間が二十日の加工食品は、製造から十日を過ぎると出荷できず、廃棄するか、安値を条件にスーパーなどが買い取る慣習が一部で続く。

カネハツの加藤英敏社長は「作る数と販売する数に差が出るのは仕方ないが、作ったものを捨てるのは忍びない。安売りは商品のブランド価値を損なう」と悩んできた。

そこで同社は二〇二〇年から、子ども食堂などを運営する事業者を通じて、経済的な理由で食事を取れない子どもや独居老人らに自社の総菜を無料で提供する支援を始めた。

「今困っている人を助けたい。みんなでやれることをやりましょう」。加藤社長は同業他社にこう呼びかけ、支援の輪を広げた。現在ではカゴメや浜乙女、イチビキなど約四十社が賛同。カネハツは名古屋市や稲沢市など愛知県内に四つの配送拠点を設け、大型冷蔵庫に各社の食品を保管。愛知、岐阜、三重県のNPO法人などを通じて、約百六十カ所の子ども食堂に週一回配布している。

非営利団体「愛知子ども応援プロジェクト」の藤野直子代表理事は「一人も取りこぼさない社会をつくる上で、加藤社長の取り組みはありがたい」と謝意を示す。

一方、カネハツにとっても、安売りに回す商品が減り価格を維持しやすくなったほか、社会貢献を志す学生らの就職希望が増えるなど、無償の事業から副次的な効果が出ているという。

同社は今後、配送拠点を三県で十カ所つくり、食品支援を拡充したい考え。

加藤社長は「食に困窮する人たちを助けるのは食品会社の務め。ロスを減らして得た利益の一部は、子ども食堂支援に使っていきたい」と話す。





㊤カネハツ食品が子ども食堂などに配る食品を管理する拠点＝名古屋市南区で　㊦送られた食品を仕分ける子ども食堂のスタッフら＝愛知県内で

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

食料新聞：2023年11月　掲載

カネハツ食品

「食品ロス削減推進表彰」
消費者庁長官賞を受賞



新井長官㊧から表彰状を授与される加藤社長

「令和5年度食品ロス削減推進表彰」の消費者庁長官賞にカネハツ食品株式会社（加藤英敏社長、愛知県名古屋市）が選定された。

「食品ロス削減推進表彰」は、消費者庁と環境省が、食品ロス削減の取組を広く国民運動として展開していくことを目的に、食品ロスの削減に効果的かつ波及効果が期待できる、食品ロス削減の推進に資する取組を行った者に対して表彰を行うもの。

令和5年度は93件の応募があり、その中から、貢献・成果、波及・将来性等について審査委員会で議論を行い、内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞1点、環境大臣賞1点、消費者庁長官賞2点、環境事務次官賞2点、審査委員会委員長賞4点、審査委員会特別賞1点を推薦し、受賞者が決定した。

表彰式は、令和5年10月30日に石川県金沢市で開催された「食品ロス削減全国大会in金沢」のプログラムの一つとして実施され、加藤社長が出席し、新井ゆたか消費者庁長官から表彰状を授与された。

カネハツ食品では、2020年12月より愛知県下の子ども食堂や学習支援団体への後方支援を行う「一般社団法人愛知子ども応援プロジェクト」との協働によって、自社や活動に賛同した多くの同業他社の出荷期限を過ぎた食品を集めて、子ども食堂への食料支援活動を実施。中間支援団体や配送業者と各地区において最適な配送システムを構築し、県内をはじめ、東京都や大阪府等各方面へ月に1・5万～2万パックの食料を支援した（2023年6月時点で総計94・4万パック）。

定期配送以外にも、お正月商品等季節商品の食料支援も実施。賛同企業が増えつつあり、"誰も取りこぼさない社会の実現"に向けた地域社会の発展に貢献している。

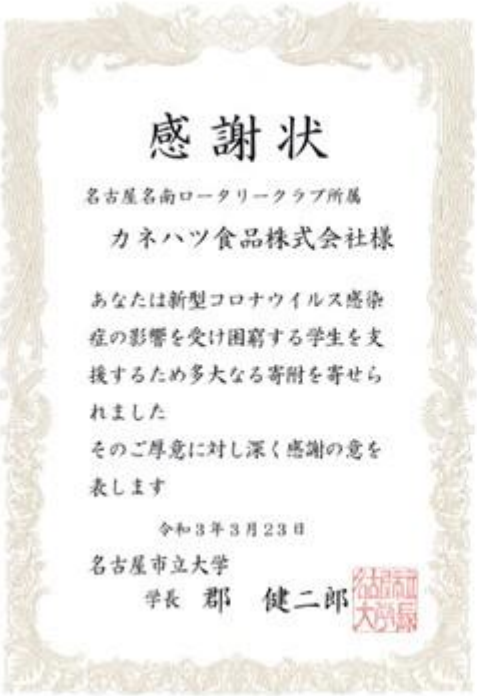
令和5年度食品ロス削減推進表彰には「子ども食堂の支援を通じて誰も取りこぼさない社会へ」というテーマで応募。多数のメーカーと連携して子ども食堂への支援を精力的に行っている点や、中間支援団体や配送業者と連携して配送システムを構築し、継続的な支援につなげている点が高く評価され、今回の受賞となった。

受賞にあたり、加藤社長は「たくさんの方々のご協力によりこうした賞を受賞できたことに心より感謝申し上げたい。今後も食品ロスを出さないように取り組むことを第一に、もし食品ロスが出ればその受け皿になっていく。この取組を食品業界にさらに広く水平展開していきたい」とコメントした。

吉岡屋の梅干し放送
外国人観光客からも人気

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

名古屋市立大学様主催　感謝状贈呈式


感謝状

名古屋名南ロータリークラブ所属

カネハツ食品株式会社様

あなたは新型コロナウイルス感染症の影響を受け困窮する学生を支援するため多大なる寄附を寄せられました

そのご厚意に対し深く感謝の意を表します

令和3年3月23日

名古屋市立大学

学長　郡　健二郎



2021年3月23日　名古屋市立大学郡健二郎学長様より感謝状授与された方

名古屋名南RC 加藤英敏　　(カネハツ食品)
名古屋みなとRC 長瀬英敏様　　(遠州屋様)
名古屋北RC 髙柳充広様　　(矢作建設工業様)
有志の会「FOR OUR CHILDREN」岡崎達也様(串タツ様)&木村忠晴様(丸祐産業様)

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

感謝状及び表彰状

●社会福祉法人愛知県母子寡婦福祉連合会様より



感謝状

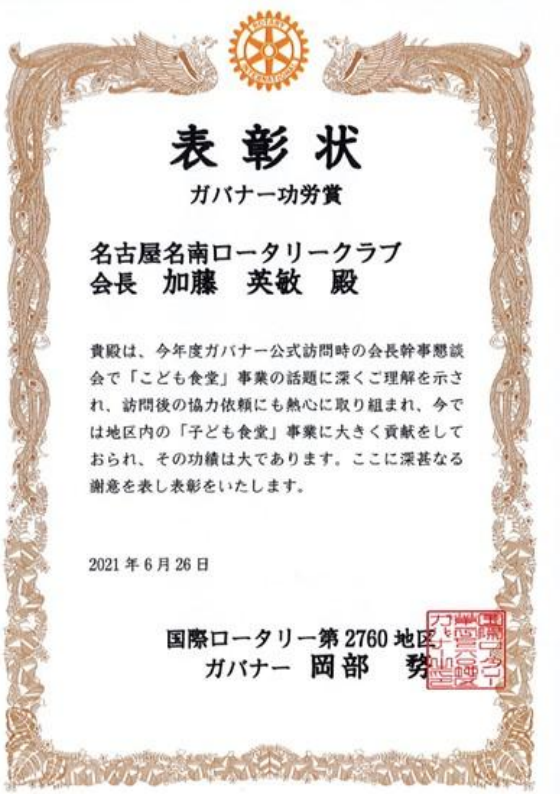
カネハツ食品株式会社　殿

この度貴社より新型コロナウイルス感染拡大で経済困窮に陥るひとり親家庭に食料品のご寄贈に加えて冷凍冷蔵庫のご寄附を賜り誠にありがたく存じます
温かいご厚意によりひとり親家庭の親子に元気と喜びを与えていただきますのでここに深く感謝の意を表します

令和三年四月二十八日

社会福祉法人愛知県母子寡婦福祉連合会
理事長　中條　里枝

●国際ロータリー　第2760地区　ガバナー功労賞　授与



表彰状

ガバナー功労賞

名古屋名南ロータリークラブ
会長　加藤　英敏　殿

貴殿は、今年度ガバナー公式訪問時の会長幹事懇談会で「こども食堂」事業の話題に深くご理解を示され、訪問後の協力依頼にも熱心に取り組まれ、今では地区内の「子ども食堂」事業に大きく貢献をしておられ、その功績は大であります。ここに深甚なる謝意を表し表彰をいたします。

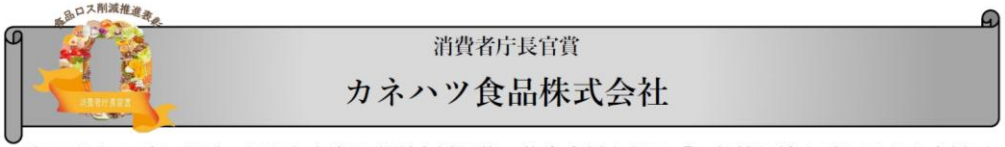
2021 年 6 月 26 日

国際ロータリー第 2760 地区
ガバナー　岡部　勢

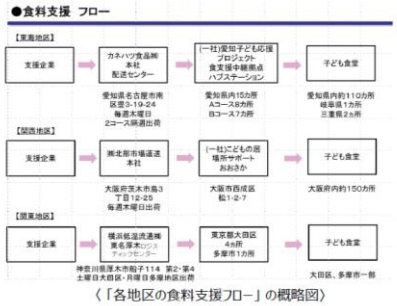
Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

食品ロス削減全国大会in金沢（※1） 2023年10月30日

消費者庁及び環境省が実施する「令和5年度食品ロス削減推進表彰(※1)」において、「消費者庁長官賞」を受賞しました。多数のメーカーと連携して子ども食堂への支援を精力的に行っている点、中間支援団体や配送業者と連携して配送システムを構築し、継続的な支援につなげている点が評価されました。



2020年12月より愛知県下の子ども食堂や学習支援団体の後方支援を行う「一般社団法人愛知子ども応援プロジェクト」との協働により自社や活動に賛同いただいた多くの同業他社の出荷期限を過ぎた食品を集め、子ども食堂への食料支援活動を実施。中間支援団体や配送業者と各地区で最適な配送システムを構築し、県内をはじめ、東京都や大阪府等各方面に1.5万～2.0万パック/月の食料を支援（総計94.4万パック（2023年6月時点））。定期配送以外にも、お正月商品等季節商品の食料支援も実施。賛同企業が増えつつあり、誰も取りこぼさない社会の実現に向けた地域社会の発展に貢献している。



〈「各地区の食料支援フロー」の概略図〉

〈取組み内容の掲載記事〉
※中日新聞
2021年12月31日号





〈愛知子ども応援プロジェクトから
支援品を受けた方々からの御礼メッセージの一部〉





(※1)食品ロス削減全国大会とは
令和元年10月1日に施行された「食品ロス削減推進法」で、10月を「食品ロス削減月間」、10月30日を「食品ロス削減の日」と定めており、「食品ロス削減の日」に全国大会を開催しています。
(※2)食品ロス削減推進表彰とは
「食品ロスの削減の推進に関する法律」(令和元年法律第19号)第16条において、国及び地方公共団体は、食品ロスの削減に関し顕著な功績があると認められる者に対し、表彰を行うよう努めることとしています。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

「一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか」とは

大阪府大阪市西成区にあるこども食堂や居場所づくりを行っている団体が安定して活動が継続できるようサポートすることを目的とした活動団体のネットワークによる中間支援事業団体。弊社は同団体を通じて2021年8月から関西方面への食品支援活動を定期的に実施中。

加えて、こども家庭庁が実施している「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」の令和4年度採択団体でもあり、食品や日用品の詰め合わせとなる支援BOXを準備し、こどもの貧困や孤独・孤立への緊急的な支援を行っている。令和5年度も同様に採択団体として活動しており、支援BOXの食料品の一部を弊社から供給させていただいています。
また12月はおせち料理を1，000セット供給。

●支援BOX実績　5，000円相当／セット
2023年度
9月　5，800セット
11月　5，800セット
※2023年11月に供給した支援BOX
各種惣菜、昆布佃煮、煮豆、切り餅など13品



●おせち料理実績　17，000円相当／セット
2023年度　12月　1，000セット





Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

中日新聞:2024年2月16日　掲載

中日新聞（夕刊） 2024年（令和6年）2月16日（金曜日） 2

ものに通ず

あなたに伝えたい

僕は同業の仲間によく言うんです。食べられない人に何か食べてもらうよう努力するのは食べ物を作っている僕らの責任じゃないかって。

子ども食堂支援 ロス削減に導く

加藤　英敏　カネハツ食品社長



写真・中村千春

総菜やおせちなどを手がける調理食品大手の「カネハツ食品」（名古屋市）は子ども食堂への支援で知られる。3年で1億6千万円相当の自社商品を提供。同業他社にも呼びかけて多くの食品を子ども食堂へ届ける仕組みを全国に作った。社内外を説得し活動を主導してきたのは社長の加藤英敏さん（64）。「実は、社会奉仕だけが目的ではなかった」と言う。真意を尋ねた。

（大森雅弥）

子ども食堂の支援を始めたきっかけは？

加入しているロータリークラブのガバナー（地区代表）を通じて、子ども食堂を支援しようとしている方たちがいることを知ったのが始まりです。話を聞くと、物流網がうまく構築できておらず、食べ物を欲しい人と提供したい人がつながっていないようでした。弊社としてもお手伝いできるのではと思ったのです。

そこで、付き合いのある物流会社に協力を仰ぎ、2020年末からうちの配送センターを中心にしたルートを構築していきました。それができたことで同業他社からの協力も得られ、集まる商品の量や質も広がりました。地元の東海地方だけではなく関東や関西にも支援の配送ルートができています。食品ロスの削減にもつながっています。

どうして取り組むことにしたのか。

食品流通には「3分の1ルール」という商習慣があります。製造日から賞味期限の期間で、最初の3分の1の期日までに小売店に納品するというルールです。例えば、賞味期間15日間の商品は製造後5日を過ぎれば正規の価格では出荷できません。後はどこかに安値で買い取ってもらうか、廃棄するかしかない。うちのような総菜屋の商品は賞味期間が短いから食品ロスが生まれやすい。一方で食べ物が余り、他方で食べ物がなくて困っている。前から漠然とですが、マッチングすればいいのにと感じていたのです。

社員にはどう説明したのか？

最初に言ったのは、この取り組みの目的は社会奉仕だけではなく食品ロスの削減だということでした。会社として、廃棄にかかる経費が不要になる。加えて、商品の何が売れて何が売れないかが分かる。もちろん販売データは取っていますが、子ども食堂に商品を提供することでそれが見えるようになるのです。売れなかった商品の山を目の当たりにすることで売れないと分かった商品に対策を打てばロスが減る。それに、今の若者は企業の社会貢献に関心が高いからリクルートにも役立つかもしれない。ということで、これはボランティアではなく業務としてやってもらうと言いました。

反対の声はなかったか？

本来の3割、1割の値段でも売れればもうかる、その分給料が上げられるじゃないかという声はありました。この活動はどれだけ力を注いだって売り上げはゼロですからね。それに対してはこう説明しました。「まくその通りだ。でも、それを何年も続ければ一束二束の値段が定着してしまう。ブランド力を付けようと、みんなで頑張ってきたじゃないか。10年のスパンで考えたとき、どっちか得かを考えてほしい」と。

僕らはおいしいものを食べたい、食べさせたいということなんだから。

ロスを減らすよう、3分の1ルールを見直す動きがあると聞いた。

賞味期間が90日以上の商品では2分の1になってきました。缶詰やレトルト食品、ジュースなど。でも90日未満の商品はあまり変わっていません。賞味期間30日のお総菜を例に取ると、小売店は今までは20日間で売り切れればいいわけですから、もう何でもいい、適当に作っておけってなってしまう。それでは僕が、じゃなく、作ってるみんなが浮かばれないですよ。

そもそも、日本の食品は三つの温度帯を持つんです。欧米なんかは常温と冷凍の二つで、日本はそれに0度から10度のチルドが加わる。うちの商品はこれで、さっきも言ったようにロスが出やすい。それもこれも新鮮でおいしいものを食べたい、食べさせたいからね。それが15日間になればロスが出やすくなる。それは嫌がりますよ。こっちが2分の1にしたいと言っても、「いいですよ。じゃあ3分の1でやってくれる会社から仕入れますから」となるでしょう。いくらSDGs（持続可能な開発目標）の時代といったって、それが現実です。

逆に食品ロスが減れば、子ども食堂への提供は減るということになる。

ロスの解消で収益が上がれば、半分は食品、もう半分は現金を提供するというのがあるべき姿だと思います。本当に欲しいものを買ってもらえればいい。実際、うちはたくさん食品を提供していますが、うちの商品を嫌いだったり、いつも同じ物で飽きちゃったりする人たちがいると思うんです。

そんなお仕着せではなく、選ぶ楽しさを感じてほしいと、日本マクドナルドさんにお願いして「お食事券」を作り、子ども食堂の利用者に配布しました。三つのメニューから一つ選べるんです。それだけでもうれしいじゃないですか。

子ども食堂の支援は本来、国や自治体がやるべきことでは。

そこはご家庭庁に期待したいところです。僕らとしては今後、業界団体を通じて同庁に現状を伝える一方、細かいことまで国がやるのが無理なのは分かるので、民間に委託するなり第三者機関でやるなり、スキーム（枠組み）を作ってほしい。官民が協力してスピードを持って対応することを目指したいですね。

僕は同業の仲間によく言うんです。食べられない人に何か食べてもらうよう努力するのは食べ物を作っている僕らの責任じゃないかって。今は僕ら総菜屋がやっているし、大手のメーカーには独自に支援しているところもいっぱいありますが、食品業界全体がスクラムを組んでやるべきだと思っています。

各社が自社のエリア5キロ以内の子ども食堂を支援するようになればいい。そうやってやり続けていれば、行政も予算を付けてくれるのではないか。例えば、国が製造原価で買い上げる仕組みを作ってくれたら、提供量を大幅に増やせますよ。

社会貢献ではないということだが、助けてあげたいという情熱を感じる。

恵まれているから困っている人に物をあげるというのは違うんだなあ。そういう上からの発想ではない。僕はみんな、上下なんかない、フラットだと思っているんです。僕はまだまだこういう事業をやっている家に生まれて、今はこういう立場にいるだけで。

そう思うのはうちの商品の特性もあるでしょう。親が共働きで子どもが一人で食事をしないといけない家庭がある。小さい子では火は使えない。そのときに子どもが包装をピリッと開けてすぐ食べられる。うちの商品はそういう商品なんです。おいしい物を価値ある価格で、できるだけ多くの人に届ける。それが僕らの誇りです。

インタビューを終えて

実は今回の取材は2度行った。別件で伺い、この欄で紹介したいと出直した。最初の取材の際、活動の根っこにあるのは「総菜屋の誇りなのですね」と聞くと言葉を詰まらせ、現状では「みんなが浮かばれない」と声を絞り出した。2度目の取材中に撮った今回の写真にはその時の表情が写っていないのが残念。

加藤さんの思いに触れて「尊厳」という硬い言葉が頭に浮かんだ。食べる物にも困る人たちに対して共感を持って同じ目の高さで考える。どんな環境にあっても「尊厳」は平等で侵されない。命に直結する食品を扱う人は、この言葉にも命を吹き込んだ。

かとう・ひでとし　1959年、愛知県生まれ。父はカネハツ食品社長だった郁三（いくぞう）さん。日本大商学部卒業後、総合商社ニチメン（現双日）を経て86年、カネハツ食品に入社。専務などを経て2010年、社長に就任した。全国調理食品工業協同組合調理事長、愛知県調理食品工業協同組合理事長、名古屋商工会議所常議員・食料部会長などを務める。同社は1918年に創業した老舗。主力商品はつくだ煮、煮豆、総菜、おせちなどで、昨年の売上高は79億1千万円。子ども食堂の支援活動も高く評価され、昨年10月には「食品ロス削減推進表彰」で「消費者庁長官賞」を受賞した。今回の能登半島地震でも被災地に総菜や煮豆などを提供した。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2026年3月 山梨県へ食品寄付スタート

山梨日日新聞:2026年4月2日　掲載



（7）　経　済　2版　　（第三種郵便物認可）

つくだ煮や煮豆など食料品の製造・加工、販売を手がけるカネハツ食品（名古屋市）は3月27日、子どもの貧困対策への支援として県に「れんこんそぼろ」などの食品を寄付した。今後、月1回を目安に定期的に食品を寄付する意向という。

同日、県庁で行われた寄付受納式で、同社の加藤英敏社長が石寺淳一副知事に目録を手渡した。初回は「れんこんそぼろ」2888袋と「サラダにまめ」720袋を寄付した。県によると、社会福祉協議会や子ども食堂などに提供する予定。加藤社長は「県の取り組みに協力をしている。加藤社長によると、寄付は昨年9月、県の担当者が視察に訪れたことがきっかけになった。山梨県の人たちに支援が届くようにしたい」と話した。

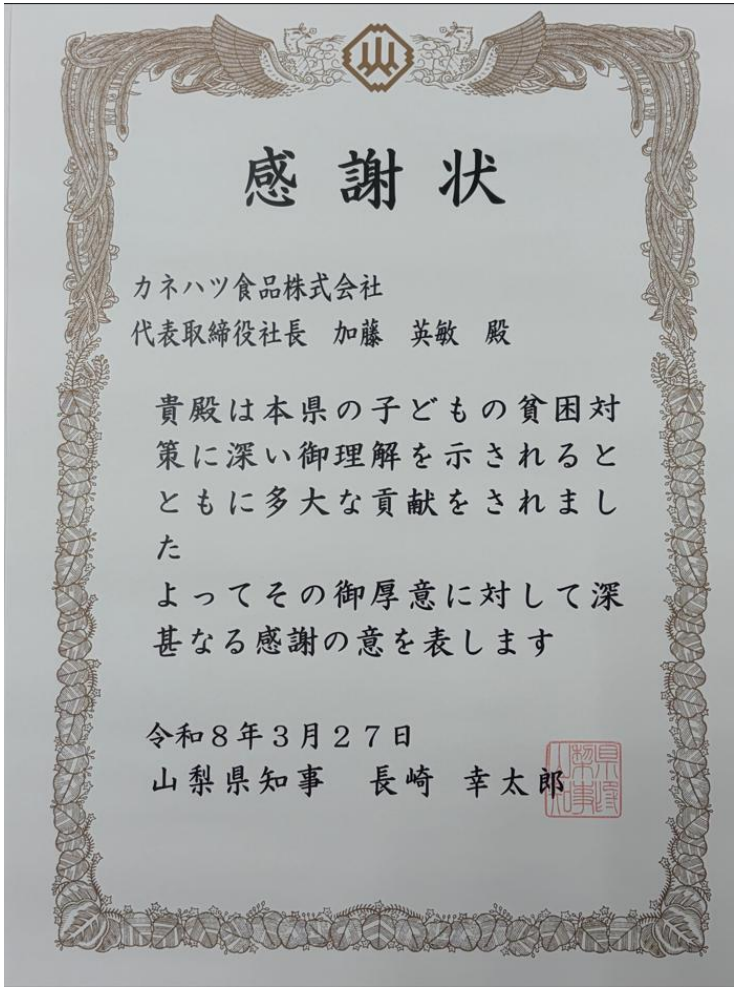
同社は2020年から子ども食堂への支援活動

〈小池直輝〉

子ども貧困対策で食品寄付

名古屋の企業 月1回目安に県へ

目録を石寺淳一副知事に手渡す加藤英敏社長＝県庁



感謝状

カネハツ食品株式会社
代表取締役社長　加藤　英敏　殿

貴殿は本県の子どもの貧困対策に深い御理解を示されるとともに多大な貢献をされました
よってその御厚意に対して深甚なる感謝の意を表します

令和８年３月２７日
山梨県知事　長崎　幸太郎

2026年3月より山梨県に食品供給スタートし、今後月1回目安に子どもの貧困対策への支援として寄付継続の予定。

Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

2026年5月13日 公益財団法人社会貢献支援財団様

弊社が継続して食糧支援を行っている一般社団法人「つなぐ子ども未来」様において、新たな地域支援拠点「つなぐカサ」が開所されました。「つなぐカサ」は、子ども・若者・家庭を地域で支える新たな居場所として多くの支援者の想いにより実現した施設です。156名の皆さまからのご寄付により、建築工事費・設計費・設備費等を含む総事業費22,751,894円を整え、無事開所を迎えられました。
また、公益財団法人社会貢献支援財団様も寄付をされており、5月13日には会長の安倍昭恵様が「つなぐカサ」を訪問されました。当日は、つなぐ子ども未来代表の安藤様より、施設案内とこれまでの活動・歩みについてご説明いただきました。加藤社長も同席し、
・弊社が2020年より子ども食堂支援活動を継続し、東海・関東・関西・熊本地区へ食糧支援を実施していること
・2021年には「マクドナルド食事券5,000人分」の寄贈企画を発案し、地域企業・団体と連携した支援活動を展開してきたこと
・今後も「食」を通じて、地域社会や子どもたちの笑顔につながる活動を継続していくこと
などについてお話しさせていただきました。





Copyright (c) Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.